

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

|       |   |        |       |
|-------|---|--------|-------|
| 研究課題名 | 安全・安心の為のファイバセンサフォ<br>トニクス - 光ファイバ神経網技術の<br>極限性能追求 - | 研究代表者名 | 保立 和夫 |
|-------|---|--------|-------|

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア  高い
- イ  やや高い
- ウ  やや低い
- エ  低い

意見：  
さらに極限性能を追求して、世界のトップを走り続けて頂きたい。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア  予定以上に進展している
- イ  概ね予定どおり進展している
- ウ  やや遅れている
- エ  遅れている

意見：  
豊富なアイデアで当初の目標を越える成果をあげている。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア  研究経費
- イ  設 備
- ウ  組 織
- エ  そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア  期待以上の成果をあげている
- イ  概ね期待された成果をあげている
- ウ  期待された成果をあげつつある
- エ  期待された成果はあがっていない

意見：  
測定レンジ・分解能比として得られた 3500 は優れた成果といえる。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア ( × ) 有機的に連携が保たれている

イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない

ウ ( ) その他

意見：  
応用面で産業界との連携が行われている。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア ( × ) 効率的・効果的に使用されている

イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ ( ) その他

意見：

#### 6 研究課題の総合的な評価

| 該当欄 |     | 評価結果   |
|-----|-----|--|
| ×   | A + | 当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる                 |
|     | A   | 当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる             |
|     | B   | 当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である                   |
|     | C   | 当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |

総合的な評価意見：

独創性の高いアプローチによって、分布型光ファイバセンサの極限性能を追求し、分解能などで優れた成果をあげている。今後さらに歪の計測制度や安定性、および各種ノイズ要因などに関する検討を行って頂きたい。今後の発展が大いに期待できる。